

第31回学習会を、平成23年7月6日(金)19:00～20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第31回目の内容

講師 重枝一郎先生(福岡市教育センター主任指導主事)

- 1 協調的な想像力 ～コミュニケーション力とその指導～
- 2 ワードトーク
- 3 ビデオ鑑賞「ハーリスできるかな」
- 4 体験活動「何ができるの？」
- 5 実践交流 田中教頭先生(松崎中学校)



協調的な想像力

～コミュニケーション力とその指導～

1. 協調的な想像力

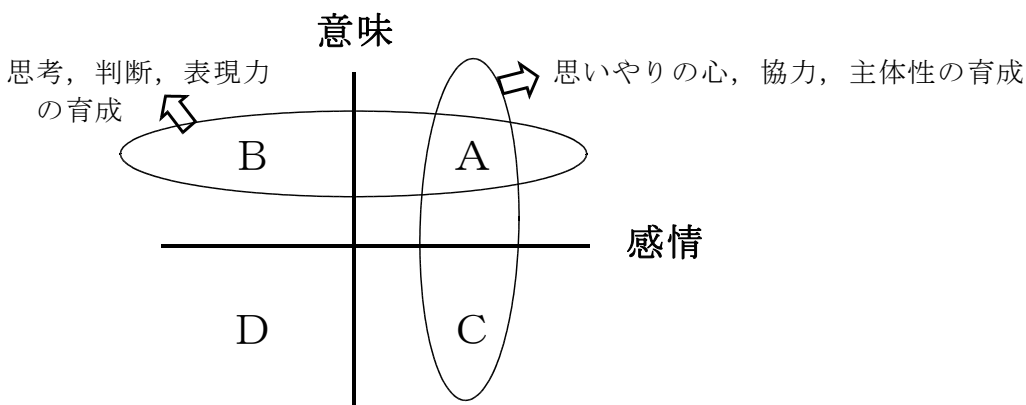
友だちと調和しながら目的を達成する想像力を持ち合わせること



2. コミュニケーション

「Co」＝「together・with」(ラテン語 わかち合う)
一人ではなく、誰かと「意味」や「感情」を伝え合うこと

3. コミュニケーション座標軸



- A : 意味と感情の両方をやりとり
- B : 感情のやりとりはないが、情報は交換される
- C : 主に感情のやりとり
- D : 意味も感情もやりとりできていない

- SGE（感情）：認め合いの体験の中で、共に生活する喜びを実感する
- SST（意味）：ある行動をつくることでまわりを変化させ、その人の不安を消し、こうすれば大丈夫と思うと、より問題解決が容易になる

4. 学校教育で育成すべきコミュニケーション

まず、「他人を思いやる心」
次に、「相手の意志や感情を的確に理解する力」
さらには、「自分の考え等を相手に伝える論理力」
理想は、「双方の考えから新しい意味が生じるようなクリエイティブな対話」

5. マインドセットでコミュニケーション活動を継続

- 成長型マインドセット（努力と忍耐を推進）
- 硬直型マインドセット（モチベーションを破壊）

努力家が怠け者に対してよい影響を与えるより
怠け者が努力家に悪影響を与えることの方が、**はるかに大きい**



底辺への競争がはじまる



集団が無気力になってしまう

- ☆ 授業が指導・係活動で評価
（学期末は、来学期の学級組織）
実績で評価
- ☆ 言葉のアンケート
（1年後に言われた言葉 言われたくない言葉）
- ☆ 学期の振り返り
（集会：・・・）



解説

◎ 協調的な想像力

チームには共有する目標があります。「協調的な想像力」とは、友だちと調和しながら目的を達成する想像力を持ち合わせることです。その力を合わせて目標に向かうプロセスが「結果」を左右します。

「みんなでする」を意識させるためには、「協調的な想像力」が必要です。ただみんなで協力するでは、意識としては低いのです。目標を達成するために、他者とどのように「調和」するのか。つまり、他者との「関係性の質」がポイントなのです。

関係性の質が高まることで結果が違うということを、理論と実感から納得させます。何のために「関係性の質」にこだわるのか、なぜ、友だちと仲良くするのかという背景を感じさせて体験させるのです。

行事でも勉強でも、友だちと調和しながら目的を達成することを意識させ、関係性の質を高め

ます。そうすると、結果の質が高まり、満足感が高まるのです。そのような成功体験を積みませ、「関係性の質」を高めることが「成功の循環」を引き出すことなのだと納得させます。

「関係性の質」が高まれば「思考の質」が高まり、「行動」「結果」の質が高まるという好循環を生み出すためには、子ども一人一人に「当事者意識」をもたせる必要があります。自分には関係ないという他人事では、「関係性の質」は高まりません。

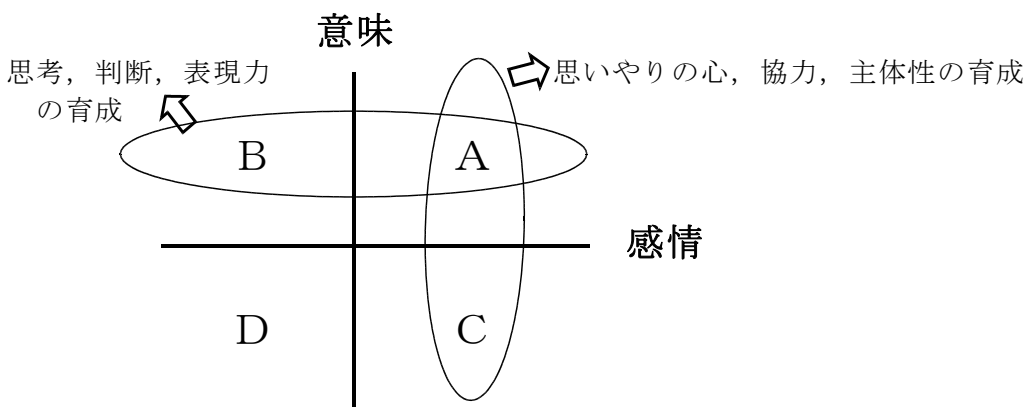
例えば、話し合い活動の場面でも、自分には関係ないという態度では、思考の質は高まりません。全員が当事者意識をもち、自分の意見を述べ合うことで、考えが広がったり深まったりするのです。そうすると、自分の意見といろいろな意見を比較し、統合されたものが、当事者としての自分の意見になっていきます。

◎ コミュニケーション座標軸

学校教育で育成するコミュニケーション能力とは端的に言うと、感情と意味を分かち合うことで、信頼関係を築いていく能力のことです。

先生はよく子どもに、「コミュニケーションが大事です。しっかりコミュニケーションをとりましょう」などと言いますが、コミュニケーションをとるとは具体的にどういうことなのか、コミュニケーション座標軸で子どもに説明できます。コミュニケーションとは「意味」と「感情」の両方をやりとりすることだと定義付けるのです。

学校教育でいえば、「思いやりの心、協力、主体性」と「思考、判断、表現力」を身に付けることだと、関連付けて話すことができます。



学校で身に付けるコミュニケーション力は「A」だと、座標軸で子どもに説明します。

「B」は感情のやりとりはありませんが情報は交換されます。仕事や事務連絡のような場合だと説明できます。

「C」は感情はあるけれど、意味はありません。どんな状況でしょうか？子どもに問いかけると「恋人」「カップル」などの答えが返ってきます。

「D」は意味も感情のやりとりもできていない状況です。コミュニケーションがとれないというのは、戦争状態です。クラスや学校が戦争のような状況になってもいいのですかと、子どもに迫ることができます。だから学校では「A」をめざしているのだと、子どもに説得力のある説明ができます。戦争状態にならないように、意味と感情の両方のやりとりが大事なのだと、意識させるのです。



エクササイズの体験活動

「ワードトーク」

- ・信頼関係を深める
- ・相手の立場にたって考える
- ・不安感が安心感になるように、相手意識を強める



2人1組になって、片方が目隠し（アイマスク）をして、もう1人が言葉だけで誘導します。例えば「あと5歩、ストップ。いいよ、そうそう気をつけて。左に90度。そう止まって、OK その下の背もたれに触って、座ってみて」という感じです。

この活動の後の「振り返り」が重要です。

アイマスク体験をした人に、誘導の仕方ではどんなところが良かったかを発表してもらいます。

- 「いいよ、そうそう、気をつけて、と励ましてくれた」 → 感情面
- 「数字で具体的に表現してくれたので、わかりやすかった」 → 意味面

振り返りでは、子どもに「感情面」と「意味面」の両方を発表させ、コミュニケーションの両面を意識させます。

例えばサッカーのゴールキーパーは、全体を見渡して人を動かすポジションです。

- 「ありがとう、ナイスプレイ！」 → 感情面
- 「シュート、シュート、もう少し右」 → 意味面

人を動かすときは、「感情面」と「意味面」の両方が大切であると教えます。

学級でも両面を意識したコミュニケーションがとれるようにします。

コミュニケーションがうまくとれていないときには、「人があんな顔をするのは、何が足りないんだ」と問いかけ、考えさせます。

そうすると、感情交流が足りないことや、意味が伝わっていないことなどに気付きます。



◎ SGEとSSTを統合させる

ソーシャルスキルトレーニング

→ 例えば「あいさつ」の SST

あいさつをするという雰囲気にする



不安を消す→こうすれば人とうまくつきあえる



まわりの状況をつくっていく



感情を注入する

エンカウンター



感情を交流させる

※先生なら誰でも、ベテラン教師なら絶対に行っています。感情交流をきちんとしておけば、しつけやすいのです。

教師と子どもが感情交流をしていれば、教師が強制性をもたずに子どもにルールを守らせることができます。それが「インナールール」と「アウタールール」の相互作用です。

この先生は信頼できると子どもが感じると、つまり「インナールール」が生まれれば、強制性を背景にしなくても子どもはルールを守ろうとします。

◎ 学校教育で育成すべきコミュニケーション

まず、「他人を思いやる心」
次に、「相手の意志や感情を的確に理解する力」
さらには、「自分の考え等を相手に伝える論理力」
理想は、「双方の考えから新しい意味が生じるようなクリエイティブな対話」

コミュニケーション能力は、すぐに身に付くものではありません。積み上げ的に継続指導をしていくものです。その過程で、子どもがモチベーションを下げないためには、教師がさまざまな刺激を与える必要があります。

そのときに、どのようにモチベーションを高めることが効果的なのでしょうか。

◎ マインドセットでコミュニケーション活動を継続

一流のスポーツ選手は、「上達への欲望」（ボストンカレッジの心理学者エレン・ウィナー教授の用語）をもっていると言います。例えば、サッカー選手のメッシは「懸命に練習すれば、すべてが可能になる」、ベッカムは「人生で何か特別なものを手に入れたいなら、練習を重ねなければならない。僕は常にそう信じていた」と言っています。このように、彼らは努力が成功をもたらすと信じています。「一流になるには努力がすべてだ」という信念がモチベーションになっているのです。

世界のサッカーチームは、選手の育成システムをもっています。それは「成長型マインドセット」の理論に則っています。

◎ マインドセットが行動に変化をもたらす

スタンフォード大学のキャロル・ドゥエック教授は、400人の子どもたちに簡単なパズルを解かせる実験をしました。パズル終了後に半数の子どもには「あなたはこれが上手ね」という才能への褒め言葉を、残りの半数には「よくがんばったね」という努力への褒め言葉を与えました。

その後2回目に難しいパズルを解かせるテストを行うと、失敗に対する反応の仕方に違いが見られました。才能を褒められたグループの子どもたちは「やっぱり自分はパズルに向いていなかった」と解釈し、努力を褒められたグループの子どもたちは、より長時間パズルに取り組んだだけでなく、解くことを楽しみ、解けなくても自信をなくすことはありませんでした。

3回目は、1回目と同じ難易度のパズルを行いました。その結果、才能を褒められたグループは1回目より20%得点が下がり、努力を褒められたグループは、30%得点が上がりました。

この差をもたらしたのは、1回目のテストの後の簡単な褒め言葉の違いだけです。このことから、才能への賞賛は相手を「硬直型マインドセット」に向かわせ、努力への賞賛は「成長型マインドセット」を維持できるということがわかりました。

◎ 努力そのものに価値を見出す

一般的に、努力家が怠け者に対して良い影響を与えるより、怠け者が努力家に悪影響を及ぼすことのほうがはるかに多いものです。マインドセットを変え、努力に価値を見出すことで「成長型マインドセット」を維持できます。この理論はサッカー等のスポーツの世界だけではなく、学校の教育活動と結ぶことができるものです。

子どもが努力することへのモチベーションを高めるために、学校で「成長型マインドセット」の話をしてみてはいかがでしょうか。

◎ 実績を評価

普通は、2学期のリーダーは2学期の最初に決めますが、1学期末に考えるという方法もあります。これは、友だちの実績をきちんと評価し、そのがんばりをみんなが認めてリーダーを選出

していくということです。夏休みをはさむより、より1学期のがんばりを正当に評価できると思います。また、来学期のリーダーを決めておくと、余裕をもってスムーズに学期をスタートでき、中身を深めることができます。つまり、質が高まるのです。

リーダーの条件は「自他共に認めるリーダー」です。リーダーは、自分がしたいと主張した人や、イメージで決めるものではなく、実績で決めます。

実績を確認するためには、学級活動の場面場面で評価しておくことと、学期末に全員でお互いを評価する場をもつことで行います。

生徒会役員の立候補を募ると、学級で班長もしていない生徒が立候補することがあります。班長を経験し、学級委員を経験し、生徒会のリーダーになれるという道筋を示します。

◎ 言葉のアンケート

学期末は、学級のルールが守られているかを確認し、必要なら再契約をするチャンスです。学級のかかわりの中で、1年後に言われた言葉や言われたくない言葉を確認します。

◎ 集会の工夫で、集団が退行することを防ぐ

集会で学期の振り返りをすると、学年チームで成果と課題を共有することができます。それは、子ども同士、教師集団の両方です。その機会を工夫すると、大きな効果があります。

例えば、夏休みに行われる中総体や中文連の大会に向けて決意表明をさせたり、夏休み明けには、部活動でのがんばりを「部活動青春トーク」として発表させたりなどが考えられます。

また、子どものノートで、よく整理されている素晴らしいノートがあれば、プロジェクトで映し出して紹介することもできます。それが、モデリングとなり、子どもにとっての良い刺激になります。

このように集会を工夫することで、集団が退行することを防ぐのです。

教師はいつもビジョンを描いて、先手の取組で教育効果を上げます。



実践ビデオ鑑賞

「ハーリスできるかな」

ねらい：コミュニケーション能力の育成
(自分の考えを相手に正確に伝え、相手と共通理解すること)

「ハーリスできるかな？」

※「ハーリス」とは「ハートリスニング」の略。「心」で「聴く」ということ。

「ハーリス」の3「く」・・・	傾「く」	3「ない」・・・	じゃまし「ない」
	向「く」		さえぎら「ない」
	書「く」		否定し「ない」

普段から「ハーリス」という合言葉で、生徒には「聴く」ということを意識させ、トレーニングをしておきます。その延長線上の演習です。

人に説明することがどれだけ大変かを実感させ、先生も授業などで説明するのに苦労していることをわからせます。相手の立場に立って、授業はもちろん日常的に「聴く」を意識させることができる内容です。

千代中学校での重枝先生の実践をビデオで見ました。導入部分で重枝先生が語っています。

「1人でたくさんの相手に向かって話すことは大変なことです。

1対1の勝負じゃなくて、大勢が相手だから大変なんです。

今日は、先生の苦労を知る内容です。

集中して取り組んでください」

子どもたちは班で活動しています。
班員に向けて、1人の生徒が一生懸命に伝えているのは、自分だけがもっている「絵」です。
ルールは、「質問はうけない・個別の指示はしない・どれだけ同じ絵が描けるか」です。
例えば、こんな感じで絵を説明します。

・ノートの右上から左下に向かって、斜めに線を引いてください。その長さは、3分の1ぐらいにします。

さてさて、右上ってここら辺でいいの？斜めって角度は？3分の1って基準は？
たくさんの「？」がありますが、質問はできません。

・その線の先に星を描いてください。

星ってどれくらいの大きさを描くの？形は？

・その星の下に少し離して、下が平らな半円を描いてください。
その半円を島と考えて、そこに生えているヤシの木を描いてください。
その左側に少し離して、船を描いてください。

次々に指示が出ますが、「少し離して」ってどれくらい？「1センチ離して」のように具体的な数値にしてもらえればわかりやすいのですが、「少し」という感覚的な言葉では、伝わりません。また、「半円」も「ヤシの木」もイメージはわくものの、どのくらいの大きさを描けばいいのか、「ヤシの木」や「船」はどんな形なのか、いざ描くとなれば迷うばかりです。

・その船の上に三日月を描いてください。
水平線を描いてください。
これで完成です。

完成した絵は、もちろん「正解」とはずいぶん違う絵になりそうです。

途中で、重枝先生の話が入ります。

「話し手は、まわりの人に伝わっているのかを考えてください。

意味を伝えるためには、なるべく具体的に伝えます。例えば、数字をつかったり。

話し手が自分の気持ちを出していないと、聴く人のモチベーションが下がっていきます。

てきとうに聴くようになります。

どんな伝え方なら相手のやる気がでるかな？」

コミュニケーションは、「意味」と「感情」の両方を意識して伝えることが大切であることを押さえます。

また、聴き方についても、授業中に1対1の関係をつくれれば、学力が上がっていくことを実感させます。授業中は先生1人対40人です。だから、協力して「聴く」ことや集中して「聴く」ことが大切なんだと納得させます。



エクササイズの体験活動

「ハーリスできるかな」

デモンストレーション

2人1組で行うエクササイズです。
封筒の中に、三角形や長方形、ひし形などのパーツが入っています。
そのパーツを組み合わせると、何かの形になります。
1人が伝え、1人は形をつくります。
2人はお互いが見えないように前後に並びます。
重枝先生が1人の先生を指名して前に出ていただき、
デモンストレーションをしました。

「三角形を置いて、平行四辺形を三角形にくっつけて
台形をはめて・・・
何ができた？」

「Aができました」 「正解」 拍手！！
見事、正解です。



体験活動

参加者全員がペアをつかって、体験しました。
制限時間5分です。
デモンストレーションを見た時は、簡単そうに思いましたが
実際は難しい内容です。

重枝先生の「やめ」の合図と同時に、どのペアも勝手に話し合いが
始まりました。

子どもに体験させても、ずっと話し合い活動をするそうです。

「伝えるのは難しい」ことが、実感としてわかります。
だから、伝え方、聴き方の両方が大切なのです。



振り返りの重要性

振り返りでは、意味面と感情面の両方で交流します。
励まし方が嬉しかった。
具体的な表現がわかりやすかった。
それを実感させます。
授業中の状態にも置き換えて、日常の実践につなげます。

このようなトレーニングを重ねて、積み上げ的に「コミュニケーション能力」を育成します。

ビジョンをもった先手の取組を重ねていくことが、教育効果を上げる唯一の方法なのかもしれません。

☆ 今回のキーワード ☆

- 協調的な想像力
- コミュニケーション：「Co」＝「together・with」意味や感情を伝え合うこと
- コミュニケーション座標軸
- 学校教育で育成すべきコミュニケーション力
「他を思いやる心」「相手の意志や感情を的確に理解する力」「自分の考え等を相手に伝える論理力」
「双方の考えから新しい意味が生じるようなクリエイティブな対話」
- マインドセット（成長型マインドセット・硬直型マインドセット）



♪学習会に参加された先生方の感想♪（参加人数 16名）

- ・6月に参加できなかったことが悔やまれます。
コミュニケーションには「感情」と「意味」を伝え合うことが大切だということを知りました。
今日も、学級経営に生かせるお話がたくさんありました。「成長型マインドセット」の話を聴いて、自分を振り返りました。努力を褒めるように心がけたいと思います。
- ・今日は雨で疲れてグッタリ。でも、とにかく行こうと来た次第ですが、バルセロナのチームの「成長型マインドセット」のお話に感動しました。
明日の保護者懇談会で、使わせていただきます。

(→今回は諸事情で、学期末の水曜日に「風土会」を設定してしまいました。参加していただければ、満足感と学校で実践できるおみやげを持って帰っていただけます。事務局でも、たくさんの先生方が参加しやすい日程調整を心がけます)
- ・教室は職員室の縮図だと思えます。学校訪問に行くと、よく見えます。内にいると見えないものですね。(外から見ると、よく見えることがわかりました)
すっぱり内側にいて、子どものせいにしてしまっている先生方に、何か少しでもお伝えすることができればと思います。
- ・日頃、学校で実践していることが、理論付けられていて、背中を押されたような気持ちになりました。経5年研修でも一部、同じ内容のお話を聞きましたが、前回よりも余裕をもって聴講することができ、また、何回も聴きたいと思いました。今まで継続して来ていなかった私は、何から始めればよろしいですか？
- ・中学校から小学校に移動になり、小学校の文化を少しずつ理解してきた1学期でした。夏季研～2学期に向けて、特に高学年の教師に紹介したい内容でした。

(→さまざまな立場の先生方が参加されています。何から始めてもよいのです。ただ、始めないと始まらないので始めてほしい・・・前に進むエネルギー(「気」)をたくわえ、行動するきっかけになればうれしいです)
- ・今日も風土会に参加して、「気」をもらいました。やる気、元気、勇気、気合い など・・・。
コミュニケーション力を生徒に話して、学期末をよりよい形で終わりたいと思います。
来学期のリーダー(学級委員)を、今学期末に決めようと思います。
- ・意味づけと感情面の融合という内容が、ストーンと落ちました。ソーシャルスキルやグループエンカウンター、リレーション活動をする時に、同じことをしても人によって結果が変わってくるのは、ここだ!と、今日はとても納得することができました。今後、自分も実践する中で、この2点をしっかり考えながら活動していきたいと思います。

(→ストーンと腑に落ちて、やる気、元気、勇気、気合いが得られれば、教師自身が楽しみながら実践できると思うのです)

♪ 「実践発表」（田中教頭先生 松崎中学校）への感想や自分の実践について ♪

- ・「教師が変われば子どもが変わる」と言われていましたが、その通りだと思います。そして、教師同士のよさを認め合い、教師のリレーションをつくっていくと話されたことも、大きくなづけました。

中学校では、教師同士のリレーションが、とても大きく子ども達にも影響していると感じているので、まずは大人の間関係づくりが大切だと、日頃から思っています。

- ・職員室の中でのコミュニケーションの大切さを、日々実感しています。子ども達だけに、いじめのない集団、助け合い認め合いのできる集団になることを求めるのではなく、まずは自分たち職員集団がそうあるべきだと、お話を聞きながら考えました。

- ・職員室でのコミュニケーションが大事だというのは、とても感じます。

「先生が変われば子どもも変わる」

私も良い方向に変わります。変わりたいです！ありがとうございました。

(→「私も変わります！」ってステキです！「空は完璧だと思うかい？」「空は完璧だ」「空は変化するから完璧なんだ」という文章を思い出しました・・・変化するには勇気とエネルギーが必要ですが・・・変化し続けたいです！)

- ・田中教頭先生の「やってみることに意義がある」という言葉に、改めて実感し、実践意欲が高まりました。特別に時間がとれなくても、日常的にできることから始めていこうと思います。

- ・回覧として、風土会の会報等をまわすのは、よいアイデアだと思いました。インプットされたことをアウトプットされた事が、職員室の雰囲気間違いなく変えることになると思います。

- ・小学校でも実践します！資料をいただきました。ありがとうございました。

- ・学んだことをすぐに実践されていて、自分への刺激になりました。教師集団をまとめるという視点でも、ここで学んでいることが活かされると思います。

- ・「理論と実践を両方学んでいる」という言葉から、確かに、この会で学んで、両方を兼ね備えることができたなら、学級づくりなどの教育活動が楽しくなると思いました。

- ・C研で実践されたことが、素晴らしいです。

風土会で学んだことを、教員ではしましたが、職員全員ですべきですね。

夏休みにやってみます。

- ・「まずは実践」という発想、大事だと思います。

金曜日に1年生で、「Happy Birthday」を実践する予定です。

有意義な活動になるようにがんばります。

(田中教頭先生の「やってみよう精神！」が、先生方の実践意欲をこんなにも高めています。

実は、この日実践発表をしていただく予定だった先生が、急にできなくなり、本当に突然（風土会開始5分前）、田中先生に実践発表をお願いしました。

もちろん快諾で「やってみます！」

その姿勢が、「まずは実践」というポジティブな空気をつくるのですね。

いつも感じることですが、風土会に集まってくいただく先生方の雰囲気、醸し出す空気は、本当にさわやかで心地よいです)